

所謂諸般經費ノ中ニ包括スル者ナリ

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

恭テ按スルニ皇室經費ハ既ニ議會ノ議ヲ經ス又會計検査院ノ検査ヲ要セス而シテ別ニ皇室會計法ニ依リ其ノ條規ヲ定メテ以テ精確ト節約トヲ要スヘキナリ

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

恭テ按スルニ皇族ト皇族トノ間ニ起ル訴訟ハ内廷ノ裁判ニ依ル

ヘシ故ニ宮内省ニ於テ之ヲ勸解セシメ勸解成ラサルトキハ特ニ裁判員ヲ命シテ之ヲ裁判セシメ更ニ勅裁ヲ經テ之ヲ執行セシム其ノ他普通ノ民法ニ於テ裁判所ノ登録又ハ處分ヲ要スル者ハ皆宮内省之ニ當ル

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

恭テ按スルニ本條人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判スルコトヲ定ムルハ皇族ノ特權ヲ示スナリ而シテ其ノ詳節ハ蓋別ニ之ヲ定ムル所アラムトス其ノ皇族ヨリ原告トシテ人民ニ對スル訴訟ハ仍普通ノ訴訟原則ニ依リ被告人ノ所轄裁判所之ヲ裁判スヘキナリ

普通ノ訴訟人ハ裁判所ヨリ本人訊問ヲ要シ召喚スルニ當リ訟廷ニ出サルコトヲ得ス而シテ皇族ハ自ラ出ルヲ要セサルハ此レ亦特權タリ

其ノ他ノ訴訟手續ニシテ此ノ典範又ハ他ノ法律ニ別段ノ條規ナキ者ハ總テ普通ノ裁判構成法及訴訟法ニ依ル

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

恭テ按スルニ皇族ハ犯罪アルモ之ヲ勾引スルコトヲ得ス其ノ現行犯ニ於ケルモ亦同シ又刑事ノ審問ノ爲ニ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス豫審判事書記ト俱ニ其ノ所在ニ就テ陳述ヲ聽クヘシ但シ天皇ノ勅許ヲ得タルトキハ例外トス

皇族證人タルノ場合ハ治罪法ニ之ヲ掲ク第七百八而シテ勅許ヲ予

フルノ限ニ在ラス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

恭テ按スルニ皇族ハ皇室ニ對シ忠順ノ義務ヲ負フ者ナリ故ニ皇室ニ不忠ナルト品位ヲ辱ムルノ汚行トハ俱ニ紀律ヲ敗ル者トシ懲戒ノ處分ヲ被ルヘシ

皇族懲戒ノ權ハ天皇ノ親ラ執ル所タリ懲戒ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ又ハ全部ヲ剝奪ス停止ハ期限アリ剝奪ハ期限ナシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ

治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

恭テ按スルニ皇族蕩産ノ所行アル者ニ對シ民法上治産ノ禁ヲ宣告シ及其ノ管財者ヲ命シ財産ヲ管理セシムルコト亦勅旨ニ由ル此レ固ヨリ天皇監督ノ權ニ屬スレハナリ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

恭テ按スルニ皇族會議ハ皇室ノ内事ニ付天皇ノ諮詢ニ應フヘク而シテ皇族ノ懲戒又ハ治産ノ處分ニ付テハ特ニ諮詢ヲ以テ必要トス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ

組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

恭テ按スルニ皇族會議ハ第一ニ皇室典範ニ係ル改正ノ諮詢ヲ受ク第二ニ第十九條第二項及第二十五條ノ場合ニ於テ其ノ議ヲ經ルヲ要シ第三ニ皇嗣ヲ換フル時ニ諮詢ヲ受ク第四ニ皇族ノ懲戒及治産處分ノ諮詢ヲ受ク其ノ他皇室ニ係ル重要ノ事件及民法ニ於テ親族會議ニ係ル事件ノ諮詢ヲ受クヘシ其ノ議事ノ規則ノ若キハ蓋別ニ之ヲ定メラルヘキナリ

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ

一員ニ命シテ議長タラシム

恭テ按スルニ天皇皇族會議ニ親臨セラルトキハ親ラ會議ヲ統理セラル其ノ親臨セラレサルトキ又ハ親ラ會議ヲ統理セラレサ

ルトキハ別ニ議長ヲ指命セラルヘシ

### 第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

恭テ按スルニ典範ノ定ムル所ニ依リハ五世以下ノ王ハ親王ト稱フルコトヲ得ス本條ハ現在ノ宣下親王ノ爲ニ其ノ既得ノ尊榮ヲ奪ハサルナリ而シテ其ノ繼嗣以下未タ宣下アラサルハ典範ノ本則ニ依ルコト知ルヘキナリ

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

恭テ按スルニ現在ノ親王家親王宣下アリシハ多クハ皇養子皇猶子タルノ近例ニ從ヒシナリ第四十二條ハ皇族養子ノ制ヲ廢ス而シテ現在既ニ行ヘル者ニ上及セス但シ皇位繼承ノ順序ハ總テ宗支遠近ノ實系ニ依リ養子猶子ノ名稱及甲家ノ子乙家ノ繼嗣タリシニ拘ラス其ノ間多小紛錯アルモ其ノ名ニ因テ其ノ實ヲ混スルコトナカルヘキナリ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

恭テ按スルニ親王内親王ノ叙品女王ノ叙位ハ蓋中古ニ在テ隋唐ノ制ニ依レルナリ皇族既ニ品位ヲ以テ班別ヲ爲シ而シテ親疎長幼ノ倫序從テ失ヘリ抑々皇族ハ生レテ潢流ノ尊榮ニ居ル而シテ大臣ノ位階ニ依テ陞叙スルノ比ニ非ス本條ニ品位ノ舊制ヲ廢スルハ一テ倫序ヲ以テ重シトスルニ因ルナリ

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル  
例規ハ總テ之ヲ廢ス

恭テ按スルニ有栖川宮、閑院宮ハ明治元年閏四月ノ令ニ依リ世襲  
親王タリ被仰出書ニ有栖川宮嫡子者即今先是迄之通爲御養子可  
有親王賀陽宮、山階宮、聖護院宮、仁和寺宮、華頂宮、聖高院宮、梶井宮ハ  
宣下同令ニ依リ一代皇族タリ嫡子始賜姓三年十二月十日ノ令ニ四親  
王伏見宮、桂宮、有栖川宮ノ外ノ親王家ハ二代目ヨリ賜姓華族ニ列  
閑院宮ヲ四親王トスセラル、コトヲ定メラル山階宮、東伏見宮、梨本宮  
十四年二月小松宮親王ヲ世  
襲皇族ニ山階宮親王ヲ二代皇族ニ列セラル十六年七月久邇宮親  
王ヲ二代皇族ニ列セラル今典範ニ於テ已ニ皇養子皇猶子ノ制ヲ  
廢シタルトキハ從テ世襲親王ノ舊制モ亦廢除ニ歸セサルコトヲ  
得ス皇子孫ハ諸王ト雖亦皇族タルコトヲ失ハサルトキハ從テ賜

姓ノ制及一代皇族又ハ二代皇族ノ家格ハ亦廢除ニ歸セサルコト  
ヲ得ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定  
ムヘシ

恭テ按スルニ皇族ノ各個財産及歳費廩給ノ方法及其ノ他皇族ニ  
係ル諸般ノ規則ハ蓋別ニ皇族令ヲ以テ之ヲ定メムトス故ニ典範  
ハ務メテ大體ヲ舉ク而シテ詳節繁文ニ涉ルコトヲ欲セサルナリ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補  
スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ  
諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

恭テ按スルニ皇室典範ハ天皇立憲ヲ經始シタマヘル制作ノ一ト  
シテ永遠ニ傳ヘ皇室ノ寶典タリ故ニ本條其ノ紛更ヲ慎ムノ意ヲ

致スナリ抑憲法ニ據ルニ其ノ條項ニ改正ヲ要スルコトアルトキ  
 ハ之ヲ議會ノ議ニ付シ特ニ鄭重ナル方式ニ依リ議決セシム而シ  
 テ皇室典範ニ於テハ獨皇族會議ト樞密顧問ニ諮詢スルニ止マリ  
 憲法ト同一ノ軌轍ニ依ラサルハ何ソヤ蓋皇室ノ事ハ皇室自ラ之  
 ヲ決定スヘクシテ之ヲ臣民ノ公議ニ付スヘキニ非サレハナリ

### 附言

會員伯爵伊藤博文君帝國憲法及皇室典範ノ義解ヲ編  
 成シ其稿本ヲ本會ニ寄贈セラレタリ君ノ意蓋シ學者  
 ノ講究ニ資シ其發賣所得ノ利ヲ以テ國家學ノ擴張ヲ  
 補セントスルニ在リ而シテ國家學ノ範圍ニ屬スル良  
 著ヲ得テ之ヲ刊行販賣シ斯學ノ振興ヲ助クルカ如キ  
 ハ固ヨリ本會ノ希圖スル所ナルヲ以テ喜ヒテ君ノ惠  
 贈ヲ受ケ速ニ剞劂ニ命シテ之ヲ世ニ公布ス因テ聊カ  
 其緣由ヲ記シテ卷尾ニ附スト云爾

明治廿二年五月

國家學會

2/2 258

明治廿二年四月廿四日印  
同治三十年六月廿一日出  
同治三十年七月廿三日再版  
同治三十年七月廿八日再版發行

國家學會  
版權所有

發行人

同

同

印刷者

印刷所

國家學會藏版

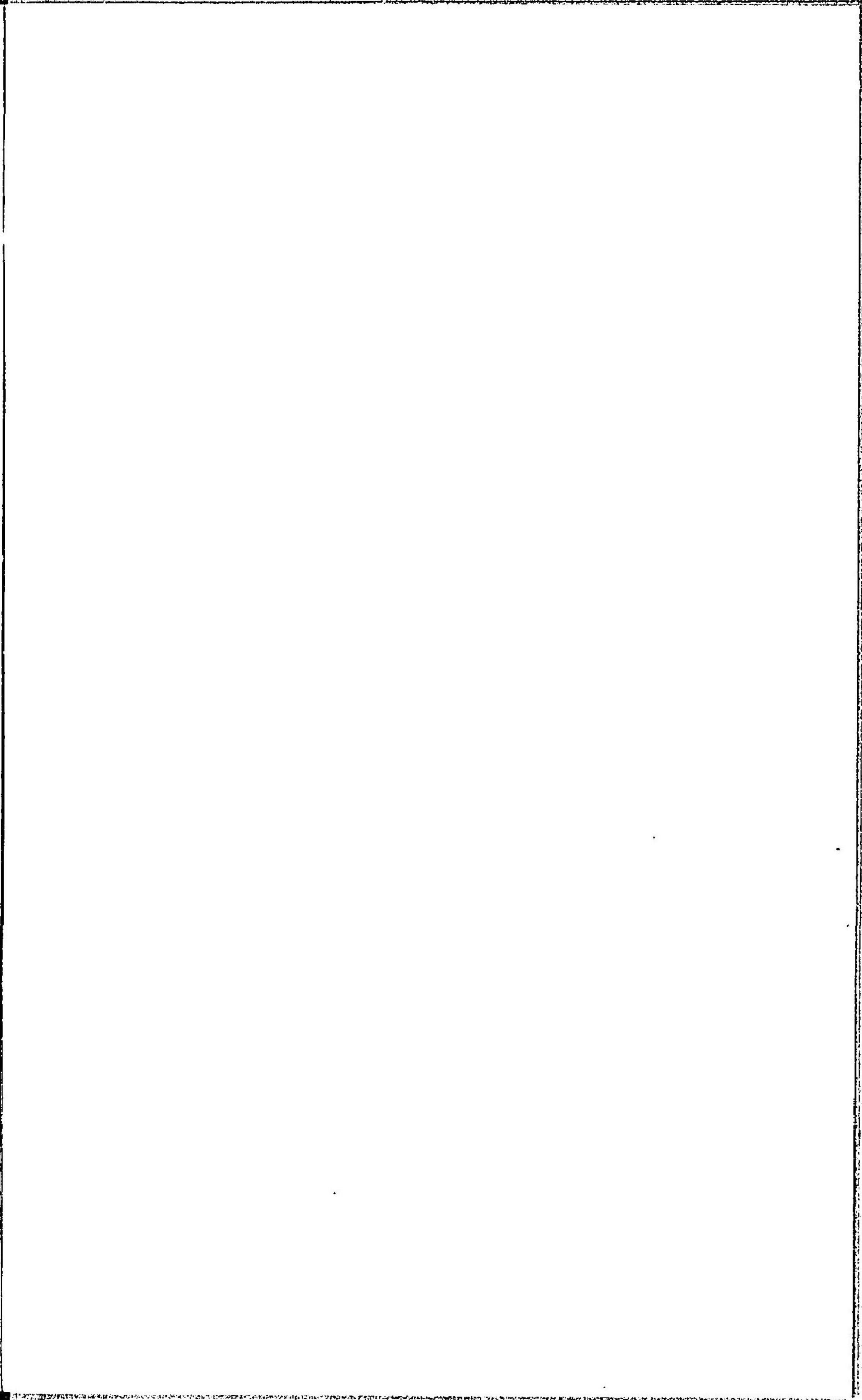
東京本郷區本郷六丁目五番地  
哲學書院

東京日本橋區本町三丁目十七番地  
高頭忠造  
金港堂

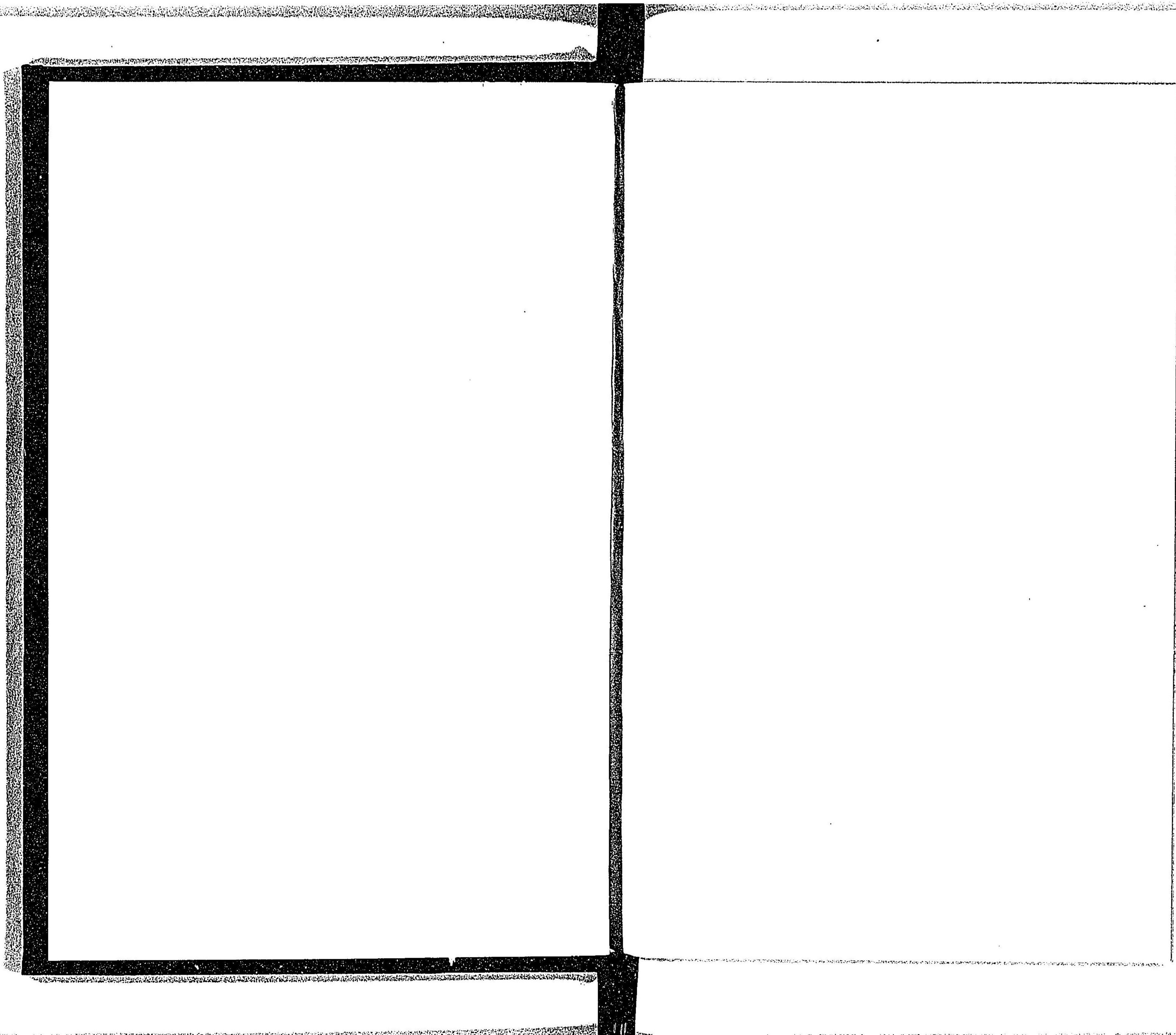
東京日本橋區通三丁目拾四番地  
原亮三郎  
丸善株式會社書店

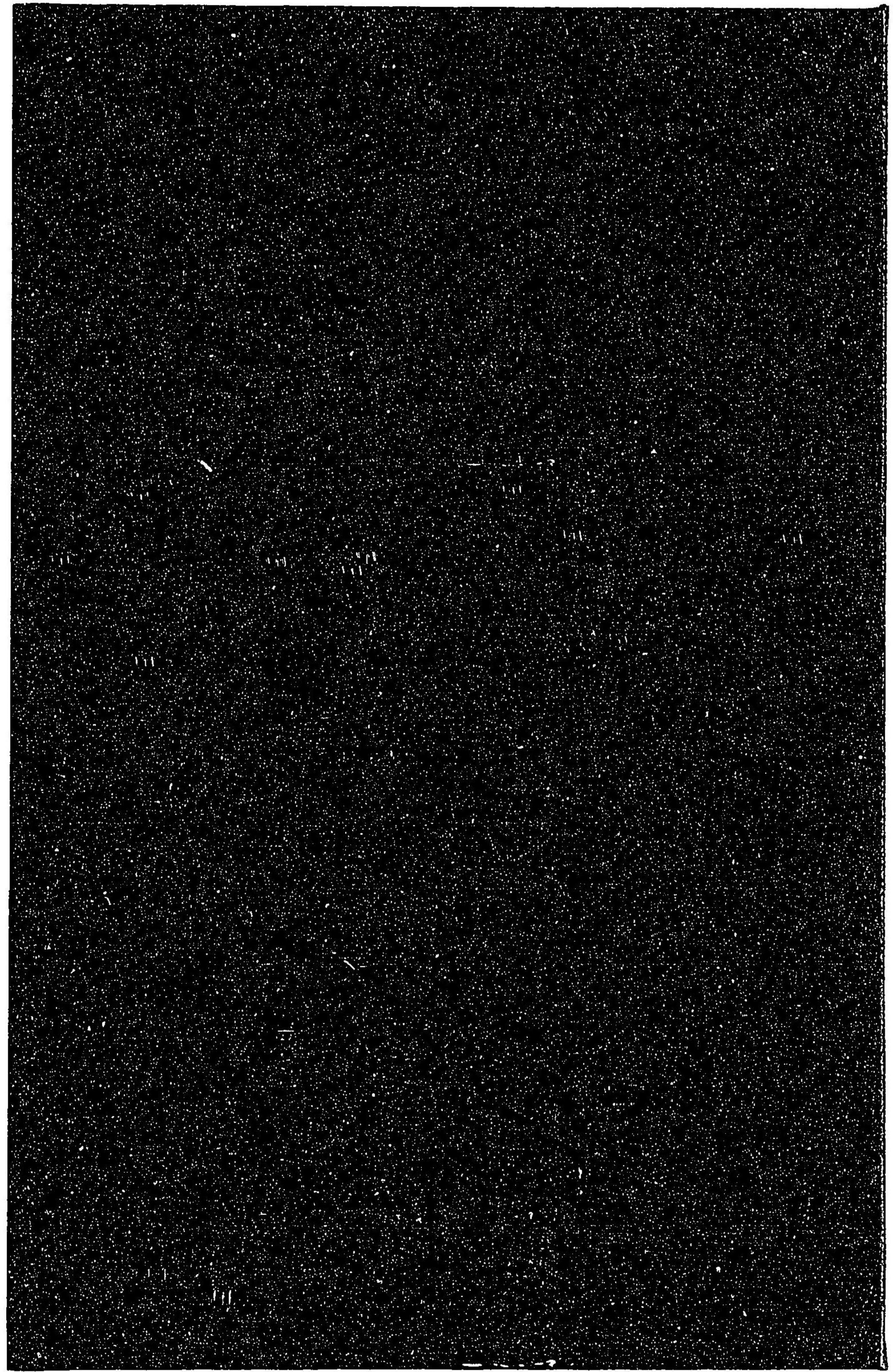
東京牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地  
小柳津要人  
島保藏

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地  
秀英舍工場









22  
324口

031756-000-1

22-324口

帝国憲法皇室典範義解

伊藤 博文 / 著

M30

BBE-0384

